



ウンカ類発生状況報告書

令和4年10月5日



(トビウウンカ発生程度別基準)

※要防除水準

程度	無	少	中	多	甚
株あたり虫数	0	1～5	6～21	21～50	51以上

(セジロウンカ発生程度別基準)

※要防除水準

程度	無	少	中	多	甚
1株あたり虫数	0	1～10	11～50	51～100	101以上

(ヒメトビウンカ発生程度別基準)

※要防除水準

程度	無	少	中	多	甚
1株あたり虫数	0	1～2	3～5	6～10	11以上

(植物防疫協会 イネの病害虫より)

【調査結果】

調査日:令和4年9月28日

調査田	捕殺数(株あたり虫数)		
	トビウウンカ	セジロウンカ	ヒメトビウンカ
岸和田市積川町	0.1頭 ※75株当たり8頭	0.013頭 ※75株当たり1頭	0.13頭 ※75株当たり10頭
和泉市黒石町	0頭	0.013頭 ※75株当たり1頭	0.08頭 ※75株当たり6頭捕殺
泉大津市虫取町	0頭	0頭	0.26頭 ※75株当たり2頭捕殺

※要防除水準とは・・・

農業による病害虫防除の必要性について判断する基準で、これ以上病害虫の発生が多くなると収量や品質に悪影響を与える恐れがあります。

総括

今回の調査でもトビイロウンカが発見されました。坪枯れには至らないとは思われますが、飛来してきており、ひそかに潜伏していたと考えられます。

長期間の残効がある箱剤(フェルテラゼクサロン等)の散布により、初期防除をすることで、大きな被害を回避することができます。本年度未散布の方は、次年度からは散布しましょう。

《箱剤例》

